

千年後の世界を想像して

東京電力(株) 技術開発本部 開発計画部 技術調査グループ
渡辺 博孝

水素エネルギー協会 20周年、本当におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

本来であれば私のような若輩者、かつ水素の研究にほとんど携わっていないものがこのような記念すべき特集号に一文を記すことははなはだ僭越と存じますが、むしろ知らないが故の飛躍した戯言として、「自分として考えた、自由な一つの未来」を書かせていただきたいと思います。大変不愉快に思われる方も多いかと存じますが、なにとぞご勘弁いただきたいと思います。

「今後の期待・抱負」というテーマについて具体的に技術の内容を描くのは正直申しまして私にとっては非常に難しいことなので、ここでは未来を想像することで替えさせていただきたいと思います。

‘想像’というより‘創造’という方が良いかもしれません。これから百年先、2百年先について考える場合は各種データに基づくことが必要なので、一気に千年先を考えてみたいと思います(もっとも実現するという根拠は無い空想なので、1万年先としても同じことなのですが...)。

まず千年という時間を現在から過去にさかのぼって考えてみます。10世紀の終わり頃といえば、日本は平安時代の中頃になります。その頃の社会や文化について詳しくは知らないのですが、当時の人々は現代の科学技術が達成した様々な事柄については想像さえしなかったことでしょう。

ただし、「夢」というレベルでは別です。たぶん基本的な「夢(=欲求)」は今の人間が考えることも、当時の人々が考えたことも同じだと思います。

千年後の世界は、基本的な夢の内容、つまり科学技術の求める方向性は現在のものとほぼ同じ、という世界と仮定したいと思います。また、科学技術は加速的に発展しているため、千年後はこれまでの千年とは比較ができないほどの進歩が達成されていることでしょう(たぶん)。

*

*

*

千年後 = 西暦で仮にいうと2千年代の終わり(西暦はすでに世界暦に変わっている)。

この頃、人口問題は解決されている。これは世界の発展が安定し、世界中が平等かつ裕福になったことを意味する。人口は特にコントロールされなくても、自律的に安定している。

人口問題が解決することには貧困の解消は不可欠であり(よっぽど強権発動とか異常な事態を経ないかぎり)、これにはエネルギー問題の解決は大きな前提となる。つまり千年後にはエネルギー問題は解決している。人間の欲求に応じてエネルギーを使うことができる。

世界の安定、人口の減少・貧困の解消にともない人間のライフスタイルは変化している。ライフスタイルは千年の間に変わるのが必然だった、とも言える。時間的・空間的に自然に調和し、自然にとけ込む生き方(晴耕雨読とでもいうようなもの)となる。

もちろん重工業製品は「工業地帯」で製造されるが、多くのものは自立的に住宅の近所でリサイクルされる。

情報網は一旦徹底的に張り巡らされ、世界の中に情報量の格差は無くなった。千年後の社会でもハードは存続しているが、もうあまり使われる必要も無くなっている。

人間そのものも変化している。遺伝子操作により、病気にはなりにくくしかも外的環境に容易に適応できる身体となっている。ますます多くのエネルギーは必要とはされない世界である。また、マインドコントロール技術も進歩している。「適当に」悩み、「適当に」苦しむけれど、基本的には楽しく明るい暮らしが続く。宗教は科学技術と融合している。

人口問題の解決の1つのキーが地球以外の星、または宇宙ステーション(スペースコロニー)への移住である。光速より速く移動することは千年後においても不可能である(と考えられる)ので、他の恒星系に移住するとすれば人工冬眠のような形をとることになる。

「自然」そのものはある程度のエネルギーをかけてコントロールされていることになる。環境問題は人口問題・エネルギー問題の解決とともにほぼ無くなる。

さらにつけ加えると、必要な場所に必要な気候を導けるようになる。千年後においては、日本ではあのジメジメした梅雨を無くすレベルにまで達する。しかし雨のコントロールが完全に可能となるのは1万年後になる。

「ツユは千年、アメは万年」

*

*

*

エネルギー問題の解決は、今後さらに顕著となることが予想される南北問題、貧困の解消という意味からも、未来を左右する大きなキーであると思います。環境性、将来性から考えて、水素エネルギーが千年後の主要エネルギー源となることは十二分に考えられます。しかし、その前に千年後の社会に結びつけられることが必要であり、これはこれからの私達のがんばりに帰する所が大だと思います。

最後にもう一度このような乱文にて貴重なページを埋めてしまいましたことをお詫び申し上げます。これからもご指導いただけますようお願い申し上げます。